

こんにちは。歴史資料室の村上です。

現在、歴史資料室では企画展示「女性と戦争・平和一銃後の暮らし」を行っています（展示は8月24日まで）。この展示は女性の視点からみたアジア太平洋戦争中の人々の生活のありようを紹介するもので、働く女性たちについても詳しく取り上げています。今回はその中から養護訓導という職業をご紹介します。

養護訓導とは現在の養護教諭にあたるもので、昭和16年（1941）の「国民学校令」公布により新設されました。従来、学校の衛生管理などの業務は学校看護婦と呼ばれる人々が行っていましたが、学校看護婦は教員という扱いではありませんでした。それに対し、新設された養護訓導は教員として位置づけられ、他の教員と連絡を図りながら職務にあたりとされました。また、その資格については「女子ニシテ国民学校養護訓導免許状ヲ有スルモノ」と定められ、女子に限られました。

当時の学校看護婦・養護訓導の仕事について詳細に記録した資料として、青森市の葛西タカによる『養護室記録』（1943年 長崎書店）があります。葛西は高等小学校卒業後、看護婦や助産婦として働いたのち青森市役所の衛生係に採用され、沖館尋常小学校（現沖館小学校）で働き始めました。当初は学校看護婦でしたが、子どもたちと接するうちに教員資格の必要性を感じて勉強を始め、養護訓導の資格が設けられると養護訓導受験準備講習会にも参加しました。この本には子どもたちとのやりとりや仕事に対する思いが丁寧に綴られており、貴重な資料といえます。



沖館尋常小学校の教職員
（『記念誌 創立六十周年』沖館尋常小学校 1936年）
※二列目の一番左が葛西タカ

さて、この本には葛西が「養護訓導養成所」に講師として招かれた際のようにも記されています。葛西は養成所のことを「鳴海先生の御尽力」によって設立された養成所と説明していますが、これは弘前市の医師・鳴海康^{やすなか}仲が中心となって開設された弘前養護訓導養成所（昭和17年4月開設、2年制）のことです。なんと、この養成所は全国で最も早く開設された養護訓導養成所といわれています。



鳴海康仲（右）と野津謙の胸像
（弘前厚生学院内）

葛西は養成所に通う若い女性たちに対し、約40分の講演を行いました。自分の話を聞きながら聞いている生徒を見て心強く思った一方、居眠りをしている生徒を見て情けないと感じたといいます。養成所の教員は生徒に気力がない理由について、制度が始まったばかりで採用されるかわからないからではないかと語っています。

実際、青森県では養護訓導の配置は進みませんでした。『青森県教育史』記述篇2（1974年）によれば、昭和16年度は皆無、昭和19年度には2名しか配置されていなかったそうです。いち早く養成所ができた青森県で制度が浸透していなかったというのは残念ですね。